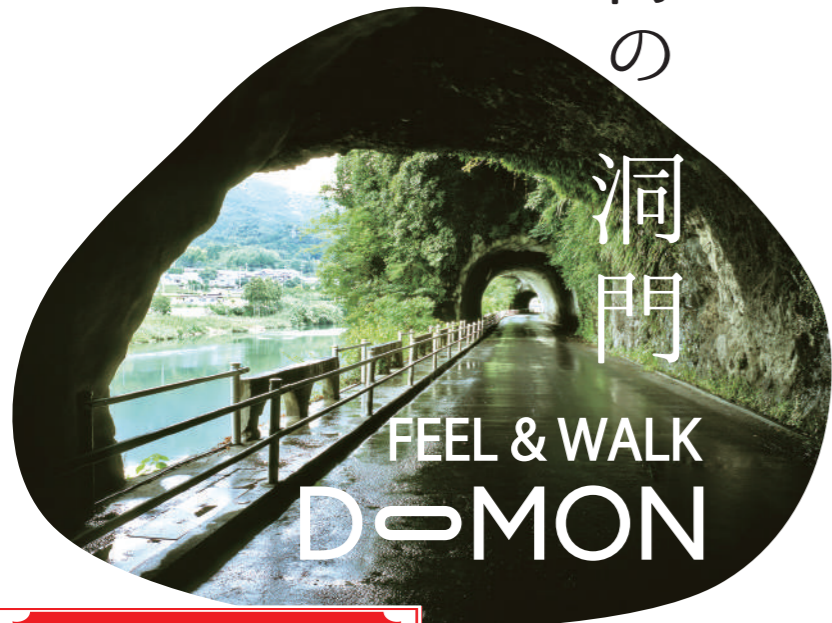


青に、歴史に、心うごく

青の洞門



FEEL & WALK
DOMON

【耶馬溪・三犬伝説】への誘い

中面に隠された「三犬」を巡り
禅海茶屋でプチ特典をGET!

Multi Language Introduction



	JR	JR博多駅～JR中津駅	72分
	JR小倉駅～JR中津駅	30分	
	JR大分駅～JR中津駅	47分	
	バス(大分交通)		
	中津～青の洞門	30分	
	日田～青の洞門	60分	
	自動車		
	中津IC	10分	
	青の洞門・羅漢寺IC	2分	
	本耶馬溪IC	8分	
	上毛スマートIC	15分	
	日田IC	45分	
	玖珠IC	40分	
	大分空港	65分	
	北九州空港	55分	

●お問い合わせ
禅海茶屋
0979-52-2123
大分県中津市本耶馬溪町曾木2066-7

YABAKEI TRIP
https://yabakei.com

「耶鉄」からサイクリングロードへ

耶馬溪鉄道は、かつて中津駅から山国町の守実温泉駅の間を走っており、地元では通称「耶鉄」として親しまれていました。1911年に耶馬溪鉄道に鉄道免許状が下付され、1913年に中津駅と樋田駅間で開業、順次区間を伸ばし1924年に中津と守実が全通となります。起終点駅を含め全19駅あり、1971年頃は1日あたり中津と守実温泉間で6本、8本、中津と柿坂間、中津と洞門間でそれぞれ2往復が運行、平日は中津と大貞公園までの区間運転も行われていた様です。軌間も開業時の762mmから1929年には1067mmに改軌されました。

戦時景況による輸送量の増加とガソリン規制による乗合自動車の衰退により業績は向上。1942年からは軍需工場神戸製鋼中津工場の工事が本格化し、1944年に工場への引込み線の運用も開始、周辺には住宅や寮が建設され、乗客数は300万人に上ったとの事です。

1945年、別府大分電鉄・国東鉄道・耶馬溪鉄道・宇佐参宮鉄道・豊州鉄道(もとの日出生鉄道)・別府自動車(合併し、大分交通が発足、耶馬溪鉄道は大分交通耶馬溪線(中津支社)となりました。

1970年代に入り沿線の過疎化による利用者減少と道路整備が進み、国鉄中津駅の高架化(1977年完成)の影響や、バス転換方針等により1975年に全線廃止となりました。しかし、1982年、廃線路を利用して大分県道411号中津山国自転車道線「メイプル耶馬サイクリングロード」として整備され、そのうち約22kmが自転車専用道路となっています。

- 9 旧守実温泉駅 7.5km / 45min
 - 8 下郷宿場 3.3km / 20min
 - 7 耶馬溪サイクリングターミナル 1.2km / 10min
 - 6 第二山国川橋 3.7km / 20min
 - 5 平田宿場 5.6km / 35min
 - 4 青の洞門 3.3km / 20min
 - 3 厚ヶ瀬トンネル 5.1km / 30min
 - 2 三光支所 6.3km / 40min
 - 1 中津駅
- メイプル耶馬サイクリングロード
約36km / 約3時間40分



日本新三景

1915年発行の「婦人世界9月号」にて、日本三景にならって実業家日本社主催による日本新三景の選定が始まり翌年、耶馬溪とともに三保の松原(静岡県)と大沼公園(北海道)が選ばれた。1918年には選定地に「婦人世界」創刊10周年記念「日本新三景碑」も建てられた。1818年に文人であった頼山陽がこの地を訪れ、当時の「山国谷」という地に中国風の文字を宛て、「耶馬溪山天下無」と詠んだのが地名の由来である。無数の奇峰と渓谷が織り成す景観は天下一品である。

日本三大紅葉の里

四季折々に表情を変えてゆく「奇岩競秀峰」の美しさと雄大さは絶品です。紅葉はもろろんの事、夏の深緑、冬の雪景色。四季を通してその景色を楽しむ事が出来ます。

日本三大奇勝

永年の風雨などにより、浸食作用を受けた火山溶岩が名勝耶馬溪の奇岩奇勝を形作った。奇岩の森林、溪流の美しさが調和する景勝地として1923年に国の名勝に指定され、1950年に耶馬日田英彦山国定公園に指定された。

日本三大渓

溶岩台地を山国川の主流と支流が浸食してきた溪谷。耶馬十溪と呼ばれる、本耶馬溪、羅漢寺耶馬溪、津民耶馬溪、奥耶馬溪、深耶馬溪、裏耶馬溪、椎屋耶馬溪、東耶馬溪、南耶馬溪、麗谷耶馬溪からなる。青の洞門をはじめ、日八泉や羅漢寺など見どころが満載。

「すごい!」魅力がいっぱい。耶馬溪



青の洞門

競秀峰の裾に位置する青の洞門は、諸国巡礼の旅の途中に耶馬溪へ立ち寄った禅海和尚が、川沿いの断崖にかけられた棧橋や青葙渡が危険で、人馬がしばしば覆没することを知り心を痛め、托鉢勧進によって資金を集め、雇った石工たちとともにノミと鋸だけで掘り続け、30年余り経った1763年に完成させました。第1期工事以降は「人は4文、牛馬は8文」の通行料を徴収して工事の費用に充てており、日本初の有料道路とも言われています。1919年に発表された菊池寛の短編小説「恩讐の彼方に」で一躍有名になりました。

耶馬溪橋(オランダ橋)

1923年に完成した青の洞門の下流にある耶馬溪橋は、石橋として日本唯一の8連石造アーチ橋でもあり、日本最長(116m)の石造アーチ橋でもあります。大分県の有形文化財に指定され、2022年には国の重要文化財に指定されました。日本百名橋の一つにも数えられており、少し上流の馬溪橋、羅漢寺橋とともに耶馬三橋と呼ばれています。大分県は石橋が日本一多い県でもあり、その大半が大分県北部(中津市・宇佐市)です。

羅漢寺(五百羅漢)

羅漢寺は、645年にインドから渡来した法道仙人が開いたとされ1300年の歴史があります。1338年、円隆昭覚(えんがんしょうかく)という僧が大きな岩穴を見つけ、インドの耆闍崛(ぎしゃくつ)や中国の天台山に似ていたことから、その石窟を「耆闍崛羅漢精舎」と名付け、1359年逆流建順(ぎやくりゅうけんじゅん)という僧がこの窟に五百羅漢像をわずか1年で完成させました。この無漏窟の五百羅漢(石仏)は、日本でつくられ現存する中で最も古く、国の重要文化財となります。



福澤諭吉が護った故郷の景観「競秀峰」。

競秀峰は1767年に江戸浅草寺の金龍和尚が羅漢寺の縁起にある「千敵競秀」をヒントに命名し、1818年に来溪した頼山陽が「耶馬溪図巻」によって天下に紹介した。

1894年に故郷中津を訪れた「福澤諭吉」は、競秀峰が売却されることを耳にし「心ない者の手に渡ると景観を損ねてしまつて3年の月日をかけ、私財を投じて競秀峰一帯を買収し保護しました。これは日本における、自然保護・環境保全のための「ナショナルトラスト」運動の先駆けと言われています。

その景観は、樋田側から「一二三の峰、恵比須岩、鬼面岩、妙見岩、大黒岩(帯岩)、鉾岩、釣鐘岩、陣の岩、八王子岩」など錦をまとった集塊岩の巨峰、巨岩群が約1キロにわたって連なりつづきます。

1923年、奇岩秀峰や溪谷美から史蹟名勝天然記念物保存法により、「名勝耶馬溪」として、1950年には「耶馬日田英彦山国定公園」の一環として指定を受けました。

歩いてみよう! 青の洞門・競秀峰

競秀峰・福澤諭吉

耶馬溪を代表する景観「競秀峰」ですが、1894年に帰郷した福澤諭吉は、売却されることを耳にし「心ない者の手に渡ると景観を損ねてしまう」と危機感を感じ、私財を投じて競秀峰一帯を買収し保護しました。

探勝道散策コース

初級コース



中級コース



上級コース



登山口 A 「青の洞門入口」からは、なだらかな坂が連なり初心者の方でも楽しく登山ができます。

「公共駐車場」からはやや急な坂道です。足元にお気をつけください。

登山口 B 「弘法寺」から分岐点までのコースは素晴らしい景色を眺望できます。

登山口 C

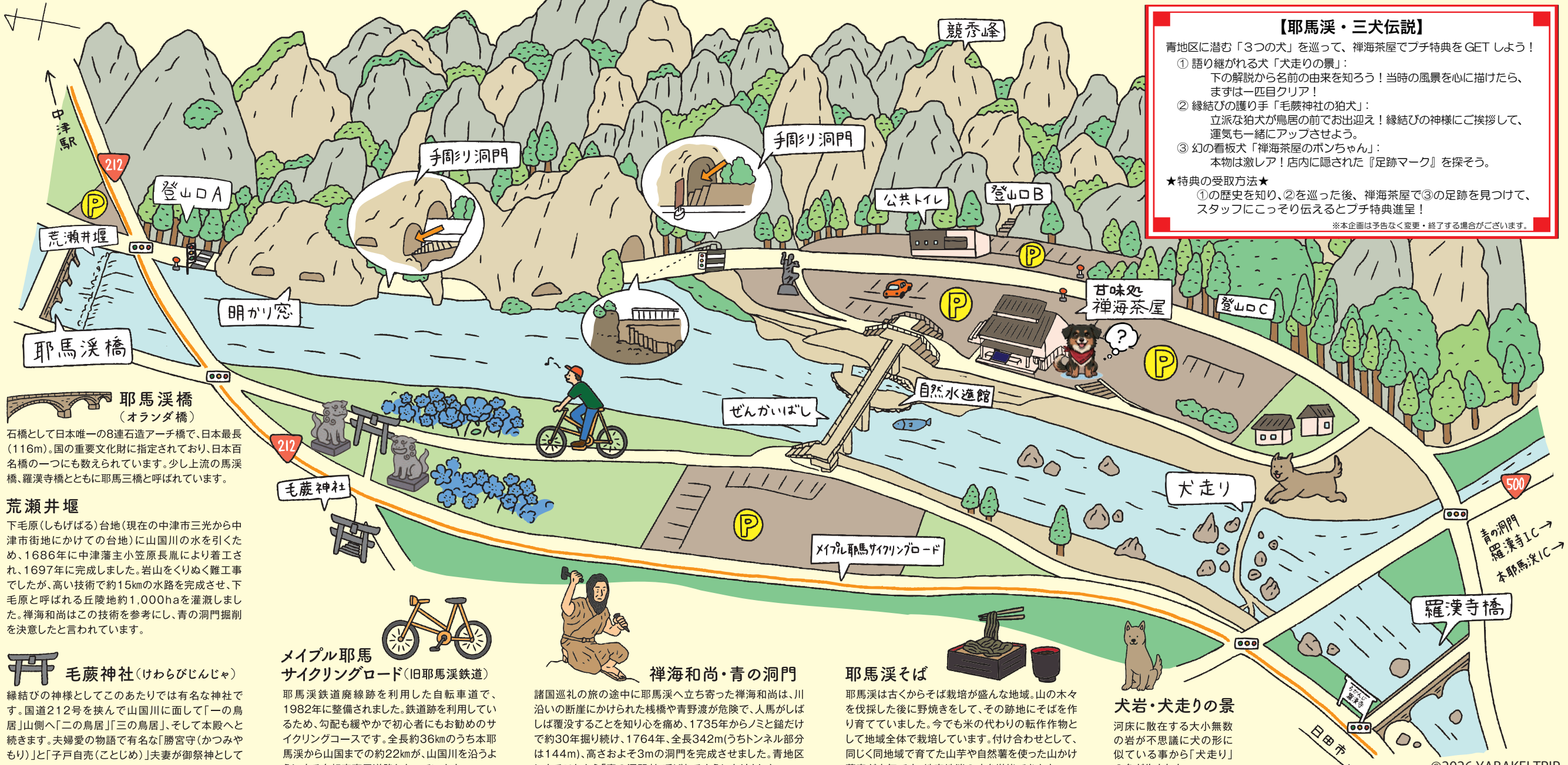
【耶馬溪・三犬伝説】

青地区に潜む「3つの犬」を巡って、禅海茶屋でプチ特典をGETしよう!

- 語り継がれる犬「犬走りの景」:
下の解説から名前由来を知ろう! 当時の風景を心に描いたら、まずは一匹目クリア!
- 縁結びの護り手「毛蔵神社の狛犬」:
立派な狛犬が鳥居の前でお出迎え! 縁結びの神様にご挨拶して、運氣も一緒にアップさせよう。
- 幻の看板犬「禅海茶屋のボンちゃん」:
本物は激レア! 店内に隠された『足跡マーク』を探そう。

★特典の受取方法★
①の歴史を知り、②を巡った後、禅海茶屋で③の足跡を見つけて、スタッフにこっそり伝えるとプチ特典進呈!

※本企画は予告なく変更・終了する場合がございます。



耶馬溪橋 (オランダ橋)

石橋として日本唯一の8連石造アーチ橋で、日本最長(116m)。国の重要文化財に指定されており、日本百名橋の一つにも数えられています。少し上流の馬溪橋、羅漢寺橋とともに耶馬三橋と呼ばれています。

荒瀬井堰

下毛原(しもげばる)台地(現在の中津市三光から中津市街地にかけての台地)に山国川の水を引くため、1686年に中津藩主小笠原長胤により着工され、1697年に完成しました。岩山をくりぬく難工事でしたが、高い技術で約15kmの水路を完成させ、下毛原と呼ばれる丘陵地約1,000haを灌漑しました。禅海和尚はこの技術を参考にし、青の洞門掘削を決意したと言われています。

毛蔵神社(けわらびじんじや)

縁結びの神様としてこのあたりでは有名な神社です。国道212号を挟んで山国川に面して「一の鳥居」山側へ「二の鳥居」「三の鳥居」、そして本殿へと続きます。夫婦愛の物語で有名な「勝守守(かつみやもり)」と「子戸自売(ことじめ)」夫妻が御祭神として祀られています。

メイプル耶馬サイクリングロード(旧耶馬溪鉄道)

耶馬溪鉄道廃線跡を利用した自転車道で、1982年に整備されました。鉄道跡を利用しているため、勾配も緩やかで初心者にもお勧めのサイクリングコースです。全長約36kmのうち本耶馬溪から山国までの約22kmが、山国川に沿うように走る自転車専用道路となっています。

禅海和尚・青の洞門

諸国巡礼の旅の途中に耶馬溪へ立ち寄った禅海和尚は、川沿いの断崖にかけられた棧橋や青野渡が危険で、人馬がしばしば覆没するのを知り心を痛め、1735年からノミと鎚だけで約30年掘り続け、1764年、全長342m(うちトンネル部分は144m)、高さおよそ3mの洞門を完成させました。青地区にあることから「青の洞門」と呼ばれるようになりました。

耶馬溪そば

耶馬溪は古くからそば栽培が盛んな地域。山の木々を伐採した後には野焼きをして、その跡地にそばを作り育てていました。今でも米の代わりの転作物として地域全体で栽培しています。付け合わせとして、同じく同地域で育てた山芋や自然薯を使った山かけ蕎麦が人気です。地産地消の味を堪能できます。

犬岩・犬走りの景

河床に散在する大小無数の岩が不思議に犬の形に似ていることから「犬走り」の名が生まれた。